

音楽科学習指導案

日 時 令和4年10月3日(金) 5校時
対 象 1年A組(男子12名、女子8名 計20名)
場 所 音楽室
授業者 千葉 志緒里

- 1 題材名 強弱や音色と曲想との関係に注目しながら、イメージに合った歌唱表現になるよう工夫しよう。

教材名 「心の中にきらめいて」(混声3部合唱) 田崎はるか 作詞、橋本祥路 作曲

2 題材について

(1) 教材観

本題材は、学習指導要領第3章第一節2内容(1)A表現ア「歌唱表現にかかわる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。」イの(ア)「曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。」ウ(ア)「創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能」、(イ)「創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能」について指導を行うこととする。また、共通事項における思考・判断のよりどころとなる音楽を形作っている要素「強弱」「音色」に焦点を当てて指導していく。曲想と音楽の構造の関わりを理解させることで音楽の特徴に注目させ、それらを生かした歌唱表現を創意工夫して歌わせることでより豊かな表現になるよう工夫させたいと考え、この題材名を設定した。

学習指導要領解説音楽編においては、第4章 指導計画の作成と内容の取扱い「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の、「ウ 知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表したり、それらについて他者と共有、共有したりする際には、適宜、体を動かす活動も取り入れるようにすること。」とある。指揮などの身体表現は思考・判断したことを表現する手段の一つとして意味のある活動であり、音楽を形づくっている要素の働きを意識して表現を工夫する学習につながると考える。本教材「心の中にきらめいて」は、本校校歌の作曲者でもある橋本祥路さんの代表的作品であり、本年度の文化祭で全学年共通の課題曲に設定した。5月から各学級での練習を中心に合唱活動を行い、一学期末に各学年からの合唱発表会を行った。曲中にベートーベン作曲のソナタ第8番「悲愴」第二楽章が効果的に引用されており、指揮を伴って曲想と音楽の構造との関わりについて学習する中で、この曲固有の雰囲気や表情、味わいなどが生み出される根拠を探り、仲間とイメージを共有することで、この曲への味わいを深め、歌唱表現に生かすことをねらいとしている。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、音楽の授業で歌うことや聴くことが好きな生徒が多い。入学直後のアンケートでは、「歌唱」「鑑賞」「器楽」「創作」の順で興味関心が高いことが分かった。二番目に興味関心を示している「鑑賞」の授業について、「着目するポイントに気を付けて聴く」ことは「楽しそう」と答えた生徒が多く、鑑賞活動に著しい苦手意識を抱いている生徒は少ないが、それを「自分の言葉で表現すること」は「苦手、難しそう」と答えた生徒も多く、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考えたことを、自分の言葉で表現することには課題が残る。

4月には映画「ジョーズ」から「ジョーズのテーマ」を鑑賞し、音楽から得られるイメージと、音楽の特徴との関わりについて注目しながら聴き、感じたことを自分の言葉で発表することはできた。しかし、音楽の諸要素がどのような効果をもたらしたりどのような情景や心情の変化に結びついていくかを自分の言葉で表現したりすることは難しかった。そのことをふまえて5月の「Let's Create!」の授業では、「構成」を考えて「音色」「強弱」に注目しながら創作し、仲間自分の表現

が伝わることの喜びや創作・表現することの楽しさを体感した。また聴いたことに対して、感じたことを根拠として言葉等で表現する力は身に付いていない部分もあるが、少しずつ根拠を伴って自分が感じたことを説明できるようになってきた。お互いに感じ取ったことを交流し、他者の感じ方や考え方から学び、自分の知覚・感受に取り入れながら、音楽の味わいをより深めさせていきたい。

(3) 指導観

本題材で取り扱う教材の中の表現を工夫する箇所は歌詞がなく「ラララ」で歌唱する箇所のため、思考・判断のよりどころとなる「音楽を形づくっている要素」を焦点化し、「強弱」「音色」に絞って迫る。これまでに指揮のような身体表現の工夫は行ってこなかったが、学習指導要領解説第4章2の内容の取扱いと指導上の配慮事項(1)ウに「指揮は主体的に音楽を表現する手段の一つとして意味のある活動である。生徒が指揮を体験する機会を設けることは、音楽を形づくっている要素の働きを意識して表現を工夫する学習につながっていく。」とあるように、歌唱表現の創意工夫に積極的に身体的表現活動を取り入れ、子供たちの内面にある音楽表現のイメージを具現化し、共有する活動を通して、仲間と試行錯誤しながら表現を練り上げていく喜びを味わわせたい。

本校の研究課題「自ら学び続ける生徒の育成～ICTを活用した授業を通して～」に迫るため、音楽科では、音楽活動の言語化・可視化に重点を置き、「感じとったこととその根拠の結びつけ」に取り組んでいる。音楽科のICT活用としては、歌唱の表現を伴う活動において個々や学級の表現を客観的に顧みて表現力を客観視し改善につなげることで資質・能力の育成という本質に迫ることをねらいとして使用したり、ロイロノート等を活用して個々の考えを集約したり共有したりする効率化を図るねらいで使用したりしている。そのことにより、学びの共有、個人内での高まり、仲間との高め合いがなされるような場を設定していきたいと考えている。

3 題材の目標

- (1) 「心の中にきらめいて」の中間部の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。
(知識及び技能)
- (2) 「心の中にきらめいて」の中間部の旋律や音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を工夫する。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 「心の中にきらめいて」の中間部の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。
(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「心の中にきらめいて」の中間部の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。	「心の中にきらめいて」の中間部の旋律やテクスチャや音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を工夫している。	「心の中にきらめいて」の中間部の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて関心をもち音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材の指導計画（全3時間）本時2時間目

時	学習活動	ICT 活用のねらい	評価方法		
			知	思	態
1	<p>○作曲者について知る。 ・「一関東中校歌」「遠い日の歌」などを手掛けたことを知る。</p> <p>○中間部の原曲について知る ・ベートーベン ソナタ第8番「悲愴」第二楽章 (他にもパッヘルベルのカノンを引用した「遠い日の歌」などクラシックが引用されることがあることを知る。)</p> <p>○一番から中間部を経て二番に入るまでを実際に歌い、ロイロノートのカメラで録画する。</p> <p>○中間部のどの部分に抑揚や緩急を感じるか自由に意見を出し合う。(ペア) ・感じ取ったことをもとに、強弱、音色を重点に、どのように表現したいか、具体的にフレージングや強弱について意見を出し合う。</p> <p>○次時の予告で教科書43ページを参考にし、指揮の基礎的事項を確認する。</p>	<p>参考CDで原曲に触れる。</p> <p>アカペラでの歌唱を録画し、のちの比較材料とする。</p> <p>ロイロノートで意見を提出し、次時の共有に生かす。</p>	知 記録		
2 本時	<p>○どのように表現したいか前時の意見を共有する。 ・前時の録音を聴き、工夫したい箇所を掘り下げる。</p> <p>○「心の中にきらめいて」の中間部の効果を感じる。 ・中間部がある演奏とない演奏を弾き分け、効果を感じ分ける。</p> <p>○深めたい表現について身体的表現をする。(グループ)</p> <p>○指揮者を立てて実際に歌唱する。 ・中間部には、歌詞の内容を深めたり、思い出を回想したりする意味合いがあることを感じながら歌う。 ・指揮者の意図を感じ取りながら、表現に生かす。</p> <p>○プロピアニストのピアノ範奏を聴く。 ・中間部の強弱や音色に着目し、豊かさを共有する。</p>	<p>ロイロノートで前時に出された意見を共有する。</p> <p>4～5人グループを意図的に編成</p> <p>「悲愴第二楽章」の冒頭部分を視聴する。 アカペラでの歌唱を録画し、前時の演奏と比較する。</p>		思 観察 記述	
3	<p>○工夫したところを意識してグループごとに発表する。</p> <p>○各グループで工夫した曲想を話し合っ、学級ですり合わせる。</p> <p>○全体で意見を共有し、合唱を仕上げる。</p>		技 観察 記述		態 観察 記述

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「心の中にきらめいて」の中間部の強弱や音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を工夫する。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の評価規準

	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手立て
思考・判断・表現	中間部のテクスチャや音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫することができる。	中間部の歌唱表現にかかわる知識を生かして創意工夫することができるよう、体を使って表現し、思考を促す。

(3) 本時の展開

指導過程	○学習内容 □評価	・学習活動・☆予想される生徒の反応	ICT活用のねらい	指導上の留意点
導入 (5分)	○どのように表現したいか前時の意見を共有する。 ○中間部の曲想について意見をまとめる。	・意見共有した後、前時の録音を聴き、工夫したい箇所をさらに掘り下げる。 ☆音が高くなったところを盛り上げたい ☆ハーモニーが広がったところをもっと豊かにしたい	ロイロで提出させた意見をもとに、意見をまとめる。	フレージングや強弱について前時に出し合った意見をまとめる。
【学習課題】 強弱と音色をもとに、イメージに合う曲想になるよう工夫しよう。				
展開 (35分)	○「心の中にきらめいて」の中間部の効果を感じる。 ○深めたい表現について身体的表現をする。☒(観察) ○実際に代表の指揮者を立てて合唱練習を試みる。 ○プロの範奏を聴き、深みを味わう。	・中間部があるときとない時を教師の弾き分けによって比較し、効果を実感する。 ・指揮の基本所作を確認する。 ・指揮を活用して高めたい箇所を数か所に絞って、グループで試行錯誤する。 ・代表の指揮者の意図を感じ取りながら、表現を高めていく。 ・音の少ない短い音楽の中にある無限の豊かさを全体で共有する。	映像で該当部分を視聴する	表現したい曲想は持っているが指揮の技術が不足している場合はやってみせるなど補足する。
終末 (10分)	○まとめの歌唱をする。 ○前時の演奏と比較し、学習の成果を振り返る。☒(記録) ○次時の予告	・一番から中間部を経て二番の出だしまでを学習したことを生かして歌う。 ・歌詞の内容を深めたり思い出を回想したりする意味合いがあることを感じながら歌う。 ・演奏を比較し、どの部分がどのように深まったか意見を交流する。 ☆表現が豊かになってうれしい。 ☆ラララだけだけど歌詞があるみたいに聞こえてきた。 ・グループ毎に発表することを告げる。	録画したものを比べる。	

(4) 板書計画

「心の中にきらめいて」

【学習課題】 強弱と音色をもとに、イメージに合う曲想になるよう工夫しよう。
